

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察特殊報について

平成27年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

平成27年度病害虫発生予察特殊報第1号

- 1 病 害 名 : メボウキベと病 (仮称)
- 2 病 原 菌 : *Peronospora belbahrii* Thines
- 3 発 生 地 域 : 沖縄本島中南部
- 4 発 生 作 物 : メボウキ(バジル)
- 5 発生確認の経緯
 - (1) 平成28年1月上旬に沖縄本島南部のメボウキ(バジル)栽培施設において、葉の黄化、葉枯れ症状が発生した(図1、2)。症状株を農林水産省那覇植物防疫事務所に送付したところ、外見症状及び病原菌形態、遺伝子解析に基づいて、*Peronospora belbahrii* Thines によるメボウキベと病(仮称)と同定された。
 - (2) 1月中旬には本島中部のメボウキ(バジル)栽培施設においても本病の発生が確認された。
 - (3) 本病は、神奈川県、大分県などで発生が確認されている。
- 6 病 徴
 - (1) 発病の早い段階では、葉裏に菌体による灰白色の霜状の症状が認められ、葉表の黄化は目立たない。
 - (2) 病徴が進展すると、葉裏が黒～灰白色の菌体で覆われ(図3)、葉表は黄化し、褐変する場合がある。
- 7 病原菌の特徴と伝搬方法
 - (1) 罹病葉の菌体を実体顕微鏡および光学顕微鏡で検鏡すると、無色透明で4～5回分岐した分生子柄(300 μ m程度)と、オリーブ色で垂球形の分生子(24-29 \times 21-26 μ m)が容易に観察できる(図4、5、6)。
 - (2) 病原菌は、罹病植物体およびその残さが伝染源となり、分生子により空気伝染する。海外では、種子伝染することが報告されている。
 - (3) 寄主として、シソ科メボウキ属およびカワミドリ属の一種、コリウス属の一種が報告されている。
- 8 防除対策
 - (1) 早期発見に努めるとともに、症状を確認した場合には罹病株及び罹病部位は速やかに取り除き、ビニール袋に密封するなどして圃場外に持ち出して適切に処分する。
 - (2) 発病は多湿条件で助長されるため、透光・通風・排水を良くし、密植を避ける。特に施設栽培では、湿度の管理に注意する。
 - (3) 栽培終了後は、ほ場内に罹病残さを残さないようにする。



図1 罹病葉の黄化症状1



図2 罹病葉の黄化症状2

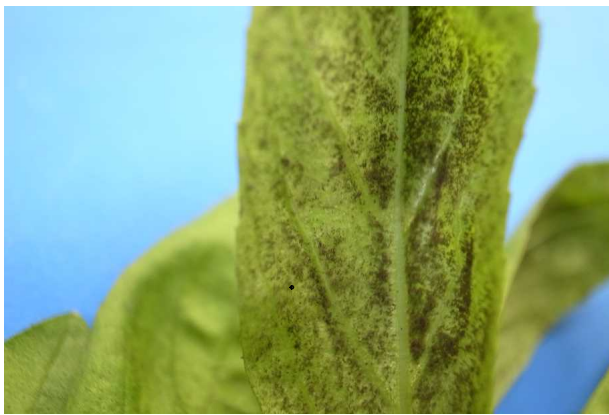


図3 葉裏の黒～灰白色霜状の菌体

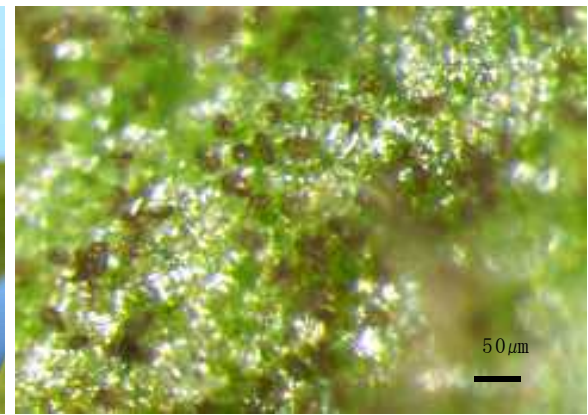


図4 オリーブ色の分生子



図5 分生子柄と分生子



図6 光学顕微鏡により観察された分生子柄および分生子

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: 098-886-3880

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>